

平成 23 年度（2011 年度）

第 51 回大会

男子優勝：札幌日大 女子優勝：札幌日大

【全道大会寸評】

第 51 回の北海道テニス選手権大会は、6 月 15 日から 17 日の 3 日間の日程で、苫小牧市緑ヶ丘公園庭球場で開催されました。

各支部大会での義援金募金や全道大会開会式での黙とうなど、東日本大震災を受けて「今、自分ができること。」を考え、周囲に対する感謝の気持ちを心に抱きながらの大会となりましたが、全日程を通して高校生らしい爽やかで周囲に感動を与えるような熱戦が、いたるところで繰り広げられました。

今大会を通して、当番校の苫小牧南高校の教職員の方々や生徒のみなさんをはじめ、高体連室蘭支部、苫小牧テニス協会、その他多くの方々のご尽力のおかげで、すばらしい大会になりましたことを、心から感謝申し上げます。

本大会の男子団体戦は 3 年連続で札幌日本大学高校が優勝し、女子団体戦は札幌日本大学高校が 2 年ぶりの優勝となりました。今年の札幌日本大学高校はともに第 1 シードとして参加しており、例年以上に戦力が充実しており、全国大会でも活躍が期待できると思われます。

優勝以外の際立った結果としては、男子団体戦で札幌開成高校が準優勝したことで、女子団体戦で帯広三条高校が昨年に引き続き女子の 3 位に食い込んだことが挙げられます。どちらの高校も日常から部活動の中で心身が鍛えられており、継続した努力が結果に結び付くということを強く印象付けた大会となりました。

男子ダブルスは 1 回戦から白熱した試合が続きましたが、最後は第 1 シードの江連・水上組（札幌日大）が接戦を制して優勝しました。女子は第 1 シードの平岩・丹野組（札幌日大）が実力を発揮し優勝しました。

男子シングルスは第 2 シードの村上幹（旭川高専）が札幌以外の高校の選手としては〇〇年以來の優勝を成し遂げました。女子シングルスは第 2 シードの土屋梨沙（札幌西）が昨年に引き続き、実力を発揮し連覇しました。

以上、各選手の全国高校総体での活躍を期待したいと思います。

【全国大会】

北東北総体テニス競技は、「がんばろう東北」をスローガンに新青森県総合運動公園テニスコート 24 面の一会場で行われ、大いなる盛り上がりを見せた。

女子団体戦では、札幌日大が 2 回戦で実力を発揮、聖霊短大付属（秋田）に快勝した。3 回戦の湘南工大付属（神奈川）と対戦では、ダブルスの織田・大塚組が個人戦でベスト 4 に入った選手を相手に互角以上の戦いを展開したが、タイブレークの末に惜敗した。シングルス NO. 2 の 1 年生丹野が中盤まで互角の戦いを続けているの打ち切りとなり、残念なベスト 16 であった。男子団体戦では、札幌日大が 1 回戦で広陵（広島）に対しダブルスの江連・高木組、シングルス NO. 1 の平井が力を発揮し、2 - 1 で勝利した。2 回戦では実力校の清風（大阪）と対戦、相手選手の確実かつアグレッシブなプレーに力負けした。

個人戦では、女子シングルスで土屋（札幌西）が、丁寧にコースをつく持ち前のプレーで浦和学院（埼玉）の選手に 8 - 6 で競り勝ち、3 回戦に進んだ。3 回戦の新潟第一の選手との対戦では、終盤ショットがやや乱れ、また相手選手のボールコントロールが冴えわたり敗退、ベスト 32 となった。その他、シングルスでは男子の村上（旭川高専）と平井（札幌日大）、女子の大塚（札幌日大）が 1 回戦を突破した。女子ダブルスでは、平岩・丹野組（札幌日大）が健闘、1・2 回戦をいずれも 8 - 5 で勝利し、ベスト 16 に進出した。3 回戦でも、第 1 シードの富士見丘（東京）の選手と対戦、好ゲームを展開したが、6 - 8 で惜敗した。

女子は団体戦ベスト 16、個人戦シングルスベスト 32、ダブルスベスト 16 と力を発揮した大会となったが、男子は全国との力の差を見せつけられる結果に終わった。男子選手の今後の活躍に期待したい。

優勝のよろこび

札幌日本大学高等学校 主将 江連 大夢

私たち札幌日大テニス部が、青森インターハイ北海道予選で昨年に引き続き優勝できたことはとても誇りに思います。部員数が 12 人と人数が少ない中、試合では全員一丸となって戦うことができました。厳しい練習やトレーニングを乗り越えての勝利だったので、大きな達成感を得たと同時に、支えてくださった先生・コーチ・両親には本当に感謝の気持ちで一杯です。

一年時からの目標であったインターハイに出場したということは将来忘れることなく思い出に残ります。

そこで、テニスをできる喜びを改めて感じ、精一杯プレーできればいいと思います。遠征でよく試合をした宮城の選手たちは、震災の影響で選抜大会を止むを得ず断念しました。しかし、今年のインターハイ予選では見事に立ち直り、出場権を獲得しました。このことを聞いて、誰かのために戦うことは素晴らしいことだと感じました。

札幌日大高校テニス部も、今回の優勝でインターハイ出場権を得ましたので、今まで協力してくださった方に感謝し、おもいきりのあるプレーで恩返しをしたいと思います。

優勝のよろこび

札幌日本大学高等学校 主将 織田 怜奈

昨年は3年生1人、あとは2年生主体のメンバーで試合経験が豊富とは言えず、準決勝で札幌西高校に1-2で敗れ、とても悔しい思いをしました。あれから1年、3年生4人、1年生1人と経験を積み重ねてきた3年生が揃い、今年こそ優勝し、皆でインターハイに行こうという強い気持ちで毎日の練習に励みました。そして私たちは決勝戦へとコマを進め、昨年のリベンジという形で札幌西高校に2-0で勝利し、チーム全員で念願の全道優勝、インターハイ出場を勝ち取ることが出来ました。

日大テニス部は、数多くの遠征に行きます。そこで足りないこと、必要なことを改めて分かり、とても自分たちの刺激になりました。さらに技術とメンタルも磨かれ、そのお陰で私たちは優勝へと近づいたのだと思います。

忘れていけないのは、日々の練習のボール拾いや、試合中のボーラー、そしてコートに立てなかった部員が精一杯応援してくれたこと、チーム一丸となって戦ってくれたことにとっても感謝しています。いつも見守ってくれていた我妻先生や応援してくれた方々には、優勝という形で恩返しできて本当によかったです。3年生は最後の全道大会を優勝で飾れたことに日大テニス部を誇りに思います。

全国高校総体 [第101回全国高等学校テニス選手権大会] 青森県

「がんばろう!東北」2011 熱戦再来 北東北総体

8月9日~16日 新青森県総合運動公園テニスコート

男子 個人戦シングルス 優勝 : 後藤 翔太郎 (三重・四日市工)

女子 個人戦シングルス 優勝 : 吉富 愛子 (愛知・椋山女学園)